今、自動車業界は "CASE" という 100 年に 1 度の変革時期を迎えています。
その中で、"E"は EV（電気自動車）シフトを示しています。

蓄電池は生成するときに沢山の CO2 を排出してしまうという課題があるので、バッテリーの生産からリサイクルに至るすべての工程で CO2 排出量を追っていける仕組みが必要であり、それを実現するのが "バッテリートレーサビリティ基盤" です。

各社が企業内で大事に保管しているデータには企業秘密や産業の優位性をもたらす価値が含まれており、それを第三者のプラットフォームに預けたり、連携先の企業が勝手に使ってしまっては困ります。
そうしたデータは企業が自分で管理しながら必要な相手にはデータを連携できる、そのような構想を取り入れているのが本基盤の新しいところです。

今回の欧州電池規則などへの対応について、各業界が個別に同じしくみを開発していくのは非常に無駄なことになるので、そのような部分を "協調領域" のシステムとして作り上げていくことは非常に重要と考えています。

一方、"競争領域" は健全な競争を日本の産業でもグローバルでもできる仕組みにしていく必要があります。
そこを各業界団体の方ともグローバルに連携しながら決めていくことが、この仕組み自体を発展させていくうえで非常に重要なポイントだと考えています。

究極的には "メッシュ型社会" を実現するための手段、企業と企業が自由につながったりつながるのをやめたりできることで、企業は自社で全部やるのではなく得意なコアとなる事業に注力し、それ以外は必要に応じてデータを連携して集めてくるような、新しい社会が実現できると思っています。

産業を超えたデータ連携を通して日本の産業界をもっと活性化していく、そういう目的があるものだと捉えています。
社会のしくみそのものを変えていくアプローチを（業界団体のみなさんと）一緒にさせていただけた実感があり、そういう活動を積み重ねていくことがこれから NTT データがやりたい社会課題解決であり、ビジネスでもあり、付加価値にもつながるのかなと思います。